令和7年度　第14回　介護・医療連携推進会議　記録

●事業所情報

法人名 合同会社カジュアル

事業所 定期巡回・随時対応型訪問介護看護みちびき

●開催日時・場所

日時 令和7年4月16日（水）　13：30～14：30

場所 訪問介護みちびき　事務所２階　201号室

●参加者（順不同）

ＮＯ 所属 氏名

1 本町地域高齢者支援センター 中山　陽子　様

2　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　荻原　知恵　様

3 秦野市役所　高齢介護課 大西　様

4 神山　様

5 訪問看護ステーションまつだ 松田　順子　様

6 みきフレンド・あふり 小森谷　陽子　様

7 地域住民の方 榎本　様

8 　　　　　　　 露木　様

9 訪問介護みちびき 田口　誠

10 　　　　　　　　　　 　　　　 岡田　知美

●議事

ＮＯ 議事内容

1 挨拶

2 自己紹介

3 活動状況の報告・傾向

4 地域とのかかわり、災害時のかかわり

5 外部評価

6 質疑応答

■1.定期巡回の実績報告

※ 利用者数：

・ 定期巡回サービスの登録者数は約200人、そのうち実際の定期利用者は毎月約25人程度で安定。大きな入れ替わりは少ない。

* 訪問内容と時間：

・ 1回の訪問は平均30分程度（全国平均と同じ）。

・ 1日の訪問回数は平均1.7回（全国平均2.7回より少なめ）。
• 主に\*\*朝（8～10時）と夕方（14～20時）\*\*に集中して訪問。
• 訪問内容は安否確認、服薬支援、軽度の生活支援が中心。排泄介助は少数。

※ 対象者の傾向：
• 多くは要介護1〜2の軽度者。
• 独居高齢者が多数を占める。
• できる限り本人の自立を促す方針（「できることは自分で」）。
• 随時対応（コール対応）：
• 月30回ほど。頻度は1日1回程度で落ち着いており、重大事故もなし。
• 転倒や不安、軽度の体調変化などの対応が主。

※　方針の特徴：
• 利用者の生活スタイルに合わせて訪問時間を調整。
• 他事業所と違い、訪問回数やサービス提供を必要以上に増やさず、「適正利用」を重視。
• 訪問介護との併用もあり、最適なケアを提案。
• 定期巡回にこだわらず、状況に応じて訪問介護へシフトする柔軟な運用。

■ 2. 地域との関わり
• 榎本氏（元自治会長・18年）と露木氏（元副会長・会計監査）が本町地域中心的なキーパーソン。
• 旗振り・見守り活動などをボランティアで毎朝実施。特に小学生への挨拶や交流で地域とのつながりを維持。
• エノモト氏は「自分の健康と地域の役に立てることが両立する」と話し、地域活動が生活リズムを整える要因にもなっている。
• 地域のつながりが強く、トラブルが少なく穏やかな地区と認識されている。自治会活動も活発で草むしりやごみ回収活動も頻繁。
• 他地域では自治会と対立して通報される事例もあるが、本町地区では「助け合いの文化」が根付いている。

• 訪問看護まつだ様からは、在宅看取りが地域の協力と定期巡回の支えで実現できているとお言葉頂く

■ 3. 災害時の関わり
• 明確な災害時の対応マニュアル等はないが、以下のような災害時にも役立つ地域との関係性・体制がある。

• 地域住民同士の連携・見守りが日常的に行われていることから、災害時の安否確認・支援体制として機能しやすい。
• 定期巡回サービスが独居高齢者の把握・訪問を行っているため、災害発生時にも居場所・状態の把握が容易。
• 在宅看取りの体制（24時間対応の訪問診療・看護）など、緊急時の医療アクセスにも繋がる基盤が整っている。
• 自治会主導の情報共有や地域支援活動が日常的に行われており、災害時スムーズな動きができると思われる。

• 定期巡回サービスの導入と運用は「軽度の独居高齢者の支援」に非常に効果的に機能しており、地域の高齢化に柔軟に対応している。
• 地域活動との連携が強く、制度とコミュニティの協働による安心な暮らしが実現されている好例。

・日常的な地域の絆と定期巡回の仕組み災害対応力を高めていきたいと思う。